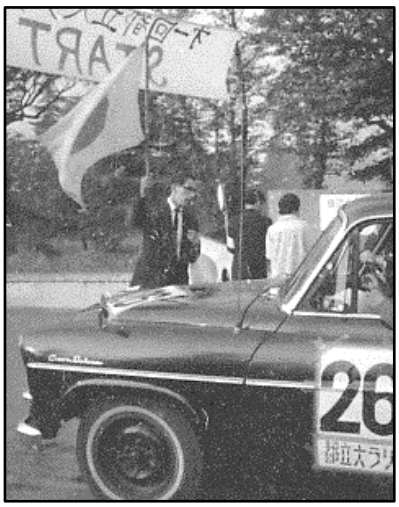
東京都立大学・首都大学東京自動車部OB&OG会誌

てぃるらんぷ

第 15 号別冊　追悼　山口元先生(元監督)

2021 年 1 月 31 日発行

2014 年 OB&OG 会　総会



1970 年　第 4 回都立大ラリー

＜掲載内容＞

1 頁	表紙
2 頁	はじめに
4 ～ 14 頁	会員からの弔辞

＜はじめに＞

編集担当　佐々木（1968 年入学）

岡崎会長の発案で、昨年 8 月に満 80 歳でお亡くなりになられた山口　元先生（元監督）を偲んで、「追悼・山口　元氏・元監督・“山口先生の思い出”」をてい るらんぷ第 15 号の別冊にて編集することにいたしました。

山口先生は、昭和 40 年4月より約 15 年間、一般職員のお立場で自動車部の監督等をお務めいただき、特にラリー活動におきましては独自の計算方法を考案され、都立大自動車部の学生ラリー部門における黄金時代の立役者でいらっしゃいました。

当 OB&OG 会には第2回総会にご出席いただき、てい るらんぷ第 1 号にご寄稿（別途掲載）していたきました。また、自動車部創立 60 周年記念に際しましては記念メッセージを寄せていただき、これもてい るらんぷ第 11 号にその内容（別途掲載）が紹介されました。

ここに、先生から多大なご指導を受けた OB の方々の追悼文を掲載して、先生のご冥福を心からお祈り申し上げます。

てい るらんぷ第1号(2014 年 8 月発行) より

「15／60 年間のTMUACとのかかわりと思い」　特別会員山口（元監督）

昭和 40 年 4 月より約 15 年間（終りの二年間は病気療養）、一教職員の立場で部員と苦楽をともにいたしました。昨年の設立総会は体調もさることながら次の理由で出席をお断りしました。

昭和 40 年コマツエンジン研究所から大学に戻り、会社で得た最新機器や計測技術の知見を基に、当時の国産車のエンジン冷却方式の提案、車体形状の空力特性の定量化などに過酷なロードテストでデータを集積し、TMUAC は今日に至る国産車の性能向上に少なからず寄与してきたと確信しております。また大学ラリーでは TMUAC 独自の計算法で関東の頂点、さらに府大戦での圧勝により日本一を極めたといえましょう。昭和 42 年には TMUAC ラリー開催まで強行されました。しかし 70 年安保の大学紛争を経て、昭和 49 年以降は第一次オイルショックの影響で自動車に対する諸活動が急激に制約され主催ラリーも五回で中止、他大学ラリーも激減しました。

昭和 55 年 1 月、前田部長がイギリス遠征を計画、その準備を兼ねた出張中に部員の死亡（一年生一名、四年生一名）事故を起こしてしまいました。これまで全国を遠征・ロードテスト、数々のラリー出場、ラリーの主催など多くの活動において物的事故は幾度かありましたが人身事故は皆無でした。この事故は部の活動ではなく部員によるプライベートな行動とはいえ、部長不在中における私の責任は大きく、以降は TMUAC とのかかわりを絶っており、昨年の設立総会への対応となりました。

今回は、これまでの経緯を認識されたうえでの執行部の熱心な誘いもあり、また会員の皆さんに TMUAC の 15／60 年間の足跡をお伝えできればとの思いもあって敢え

て出席を決めさせていただいた次第です。

昭和 40 年代に TMUAC 在籍の皆さんの強い思い入れを拠りどころとした有志の皆さんの熱意により OB&OG 会が設立されました。今後この会が、年間の TMUAC OB&OG をさらに掘り起こした上で、将来の OB&OG の皆さんと認識を共有できる環境がますます整備されることを心より期待しております。

平成31年2月6日

記念パーティーの詳細なご報告メールをお送りくださいまして御礼申し上げます。

2月2日に自動車部創部60周年記念パーティーが盛大に開催されたことお慶び申し上げます。特に創部時の渡邊さん、さらに増田さん、戸部さんらのご出席を含めて 60 名もの大勢の方が参集されたとのご報告、ここに至るまでの役員の皆さんの大変なご努力に敬意を表します。御礼申し上げます。

当日ご出席がかなわなかった君塚さん、さらに渡邊さんはTMUACの伝統を継承するためにOB会の設立を以前から強く願っておられた大先輩方ですので、今回のパーティーが成功裏に開催されたことをさぞ喜んでおられたことと拝察いたします。

添付いただいた出席者の集合写真並びにパーティー資料、特にOB会名簿はよくまとめられており御礼申し上げます。名簿に記載の歴代部員の名前を追い追い、若き当時の皆さんのお顔を思い浮かべ、数々の苦労を共にしたことを懐かしく思い出している次第です。

パーティー欠席にも関わらず早々とご丁寧なご報告をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。役員の方々のご努力に感謝申し上げ、これからも益々のTMUACとOB・OG 会の発展をお祈り申し上げます。

まずは早々のご報告厚く御礼申し上げます。

平成31年2月14日

60 周年記念の資料、CDをお送りくださいましてありがとうございました。

これまで OB・OG 会のホームページ上で半世紀以上前からの懐かしい写真を閲覧させていただいておりました。今回のCDにはさらに驚くほどのたくさんの思い出深い写真や資料が掲載されており、また部の生い立ちを丁寧に掘り起こされているなど驚きました。

ここまで都立大学自動車部の歴史的資料を詳細にまとめられたことに敬意を表し、関係各位のご努力に厚く御礼申し上げます。

今回を含め何もお手伝いできませんでしたが、丁寧なご対応をいただきましたこと厚く御礼申し上げます。

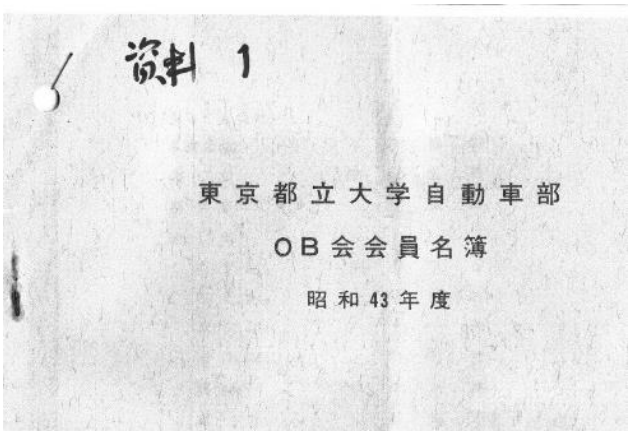
役員の方々のご努力に感謝申し上げ、これからも益々のTMUACとOB・OG会の発展をお祈り申し上げます。

まずは暖かいお心遣いに厚く御礼申し上げます。

「自動車部 OB&OG 会の設立と山口先生」　　河本（1970 年入学）

私が定年になった 2011 年、旧職場で仲の良い元農工大学自動部の人と飲んだ時に、彼が忙しくしている農工大自動車部 OB 会の話を聞きました。私が自動車部現役だったころは大学ラリーが盛んな時で農工大には負けたくないという思いがありました。しかし OB 会活動では都立大(首都大学東京)自動車部には OB 会が存在していなくて負けていると感じました。そこで当方も自動車部の OB 会を立ち上げようと思い、この友人から農工大自動車部 OB 会の会則を参考に頂き、現副会長の小島さん、その一期上の岡崎さん(現会長)に相談し(酒の席ですが)一緒に OB 会を立ち上げようということになりました。

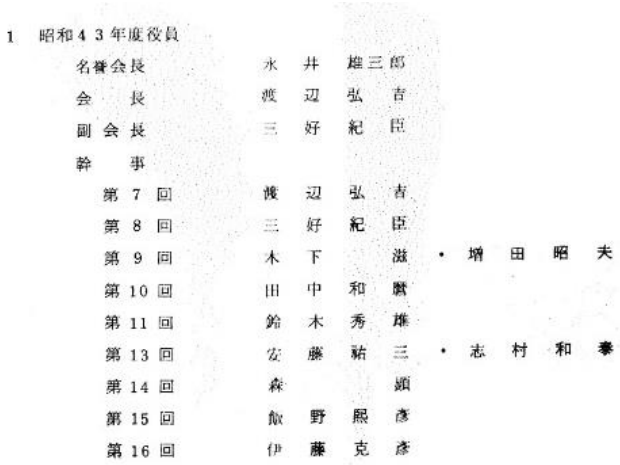
まず名簿の整備から着手しました。当然先生方にも連絡をしたいと思い、2012年11月頃に山口先生、志村先生に連絡を取りました。山口先生はすぐに返事を下さり、手元に残っていた名簿を送ってくださいました。その写真を付けます。


資料 1

東京都立大学自動車部

OB会会員名簿

昭和43年度


1　昭和43年度役員

名誉会長	永井雄三郎	
会長	渡辺弘吉	
副会長	三好紀臣	
幹事		
第7回	渡辺弘吉	
第8回	三好紀臣	
第9回	木下滋	・増田昭夫
第10回	田中和巌	
第11回	鈴木秀雄	
第13回	安藤祐三	・志村和泰
第14回	森頌	
第15回	飯野照彦	
第16回	伊藤克彦	

この中の学生の名簿は7期から16期まで載っていて、はるか昔に OB 会があったことを初めて知りましたが、私が卒業した時は全くこの OB 会がある(あった)話は聞きませんでした。 その後何回か連絡を取り合い、翌 2013 年7月の初総会への参加をお願いしましたが、先生の都合がつかず、以下の連絡を頂きました。

山口 元　　元監督

本日は、新生 TMUAC　OB 会の設立　おめでとうございます。

君塚・三好両大先輩のご支援ならびに吉村先生のご指導のもと、有志の皆様のご執念、ご苦労、ご努力に対しましてこころより敬意を表します。

昭和 40 年 4 月より約 15 年間　都立大学自動車部で教職員として皆さんとともに苦楽をともにさせていただきました。

都立大学退官後 10 年を経過し 73 歳となりました。一昨年は不整脈の手術をしましたが、現状はいろいろな検査データとにらめっこしながらの生活です。今回出席できず大変申訳ございません。その理由は体調もさることながら以下に経緯をご紹介いたします。

私　昭和 40 年 4 月都立大学に戻り　小松製作所(コマツ)エンジン研究所での計測機

器や計測方法の知見を参考に、以後自動車部の学生の皆さんと一体で当時の国産車のエンジン冷却技術ならびに車体形状の空力特性向上に寄与してきたと皆さんともども確信しております。

毎回の遠征では夜通し過酷なデータ取得をお願いしました。いまでも皆さんお恨みのことと思います。申訳ありませんでした。

また大学ラリー出場成績では関東地域の頂点を極めたのではないでしょうか。さらに都立大ラリーの開催まで強行しましたが、他大学に負けない規模を目指し、設立にあたっては多くのスポンサーを獲得するため部員と一丸となり苦労し奔走したことが思い出されます。関わった皆さんご苦労様でした。しかし昭和 49 年以降は第一次オイルショックの影響で自動車に対する諸活動が急激に制約されるようになり主催ラリーも中止、他大学ラリーも激減しました。私も前田先生の学位論文の実験データの取得、メーカーに提出する遠征時に取得した実験報告書の作成、研究室の雑務処理等々で大学に泊り込むことが多く不規則な生活のためダウン、2 年間の闘病生活を余儀なくさせられました。 病気復帰直後、昭和55年1月、前田部長がイギリス遠征を企画、その準備を兼ねてイギリス出張中に部員の死亡（1 年生 1 名、4 年生1名）事故があり、さらに大学内での不祥事も発生しました。以後私は自動車部との接触が絶たれることとなりました。

自動車部の歴史約 50 年の内わずか 15 年間かかわりを持たせていただきました。この間に部活動としては日本中を遠征、数々のラリーに参戦、ラリーの主催など過酷な状況を克復してきました。しかし物的事故は多々あったものの、人的事故は皆無でした。部活動ではなく部員どうしのプライベートな行動とはいえ、55年1月の事故は、部長不在中の大事故でもあり私の責任は大きく、以後の自動車部からの永久謹慎はやむを得ないと自覚して今日に至っております。

今後とも皆さんのご健勝とますますのご活躍をお祈りしております。

翌 2014 年の総会には出席していただけました。

以下は、2018 年の総会に寄せていただいたメッセージです。

TMUAC　OB 会には大変ご尽力をなさっておられことに敬意を表します。

当方体調すぐれず過ごしております。と言いますのも 7 年前の不整脈アブレーション手術後の再発が認められるようになり体調管理をいたしているところです。今年の初めごろから動悸が顕著になり以後外出も最小限にしております。

自動車部OBの一部の集まりに毎年新年会の誘いを受けております。坪井氏がキャプテン時代の OB と、一期後の小佐野氏がキャプテン時代 OB の集まりです。今年は坪井氏逝去の報を受けてのお誘いでしたが体調不良のため欠席いたしました。

小佐野氏、高田氏は第 1 回、私と大下氏は第 2 回、坪井氏は第 3 回の OB 会に出席していることで、河本さんはじめ OB 会の執行部の皆さんはご認識いただけるかと思います。特に坪井氏は第 1 回都立大ラリーのキャプテンということはOB会に出席された際にお話があったことと思います。総会の写真を拝見した際には大変お元気そうでしたが、大下氏から訃報の知らせをいただき大変驚いた次第です。

つきましては、高齢（78 歳）に加えて現状体調が思わしくないため、7 月の総会並びに来年のTMUAC創部 60 年という記念行事に出席できませんこと関係各位には何卒よろしくお伝えくださるようお願い申し上げます。

体調回復の見込みができましたらあらためてご連絡を申し上げます。

改めて山口先生のご冥福をお祈りいたします。

山口先生の略歴

昭和 39 年　大学卒業
昭和 40 年～昭和 54 年　助手
昭和 54 年～平成 6 年　講師
平成　6 年～平成 14 年　助教授
平成 14 年　12 月 31 日　退官
令和　2 年　8 月　逝去

「山口先生の思い出」

高田（1966 年入学）

この度、山口先生の訃報に接し、残念な思いで一杯です。

私が山口先生にお会いしたのは、1966 年に自動車部に入って暫く経ってからです。そして、4 年生になってから 1 年間は卒業研究を直接ご指導を頂きましたので、大学生活で最もお世話になった先生のお一人です。先生の人柄は、とても温厚で真面目で、何事にも冷静に取り組まれる姿が眼に浮かびます。

私は入部してから構造担当で、主に部車の修理をしていましたが、ラリーでは計算担当でしたので、山口先生と一緒にラリーに参戦した事が一回あります。

ドライバーが前田先生で、ナビが小佐野さん、後席には山口先生と私が計算担当というチームで、車は前田先生の紫色のベレルでした。コースは房総半島方面でしたが、当時はまだ未舗装路が沢山ありました。その未舗装路で激しく揺れる車の後席で、山口先生がバインダーを使って「変速ポイント名、指示速度、距離、時刻など」を集計表に書かれ、その文字が少しも歪んでいなくて驚いていましたら、先生は私が書いた集計表を見て、「高田君、字が読めるようにもっと綺麗に書いてくれよ」と言われました。でも揺れる車の中で歪まない字を書くなどという事は、私にはとても出来ませんから、先生の技量の素晴らしさに「凄い人がいるもんだ」と驚嘆していました。更に、先生はソロバンを持って来られていて、揺れる車の中で何かの計算をするためソロバンをはじかれていたのにも驚きました。勿論、当時は携帯電卓はありませんでしたから、計算はタイガー計算機か、計算尺あるいはソロバンしか無い時代でした。

どんな状況になっても、少しも慌てず丁寧な仕事をされるという先生の素晴らしさを痛感したラリーでした。

1968 年夏の北海道遠征では、山口先生のセドリックワゴンが使われました。この遠征中では、私が運転する時に助手席から色々と運転技法について教えて頂きました。その時に教えて頂いた事は今でも運転中に時々思い出します。

1969 年春に私は熱機関研究室に入りましたので、先生には毎日お世話になる事になりました。まず最初は卒業研究の為の実験装置の使い方や、測定機材の操作方法から教えて頂きました。その後は研究課程で困った時には相談して適切な対処方法を示唆して頂きましたし、必要な機材も存分に用意して頂き、快適な環境の中で無事に卒論を作成する事が出来ました。私が無事に卒業できたのは先生のご指導のお陰だと感謝しております。

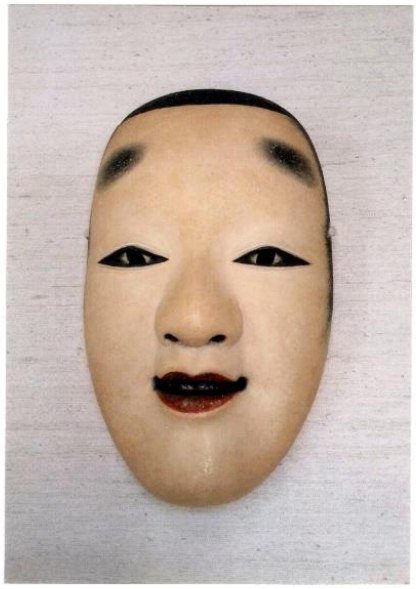
卒業後は何回かご一緒に飲む機会がありましたが、ある時にはご自分で作られた能面を披露された事があります。それは本職の人が作ったのかと思うくらいに素晴らしい仕上がりでしたので、このような才能もお持ちだったのだと改めて感心致しました。

ここ数年は体調を崩されていましたので、回復された後にまたご一緒に飲む機会が来ると心待ちにしておりましたが、ご逝去されたと知り大変驚きました。

先生には大変お世話になりありがとうございました。

ご冥福をお祈り致します。

退官後は、好きな事をしたいという事で、木彫りを趣味として取り組まれ、能面制作を約 16 年されました。その後、仏像を制作するため先生について学ばれ、亡くなるまでの 6 年間、制作に打ち込まれました。瑠璃観音菩薩は遺作となりました。



十六中将（じゅうろくちゅうじょう）

節木増（ふしきぞう）

瑠璃観音菩薩

「山口先生のブルーバード」

小西 （1967 年入学）

電気科だった私は機械科の山口先生から直接教えを受けることはありませんでした。自動車部でも運転練習でご指導を受けた記憶はほとんどありませんが、都立大ラリーなどの運営面では細かい点にまで気を使っていただき、大変お世話になりました。

私には、先生以上に先生の愛車「ブルーバード」での思い出が強く残っています。

ある時、山口先生が学会への出席か何かで海外出張され、留守中の保守のため先生のブルーバードを自動車部でお預かりしました。

その間に電機大ラリーがありました。いつものようにセドリックなどの部車数台が正規チームで参加する傍ら、ブルーバードでもう 1 チームが 2 人制で出場することになり、ドライバーの西川先輩と組んで出場しました。

2 人制ラリーは初めてで、ナビと計算を一人でやらなくてはならず不安が一杯でした。案の定スタート直後のミスコースで大幅に出遅れ、とにかく諦めずに完走を目指してゴールしました。

ゴール後に救済措置のレスコンを申請したものの、上位入賞は諦めていました。ところが結果を見ると、驚いたことに部車で参加した正規チームを差し置いて、「おまけ」で出場したブルーバードチームが優勝していました。

クラウン，グロリア，1609，ブル

よく言われる「最後まで諦めずに全力を尽くせば結果は付いてくる」ことを体感できた貴重な思い出です。

「山口先生の思い出（東北道の昨今）」

高橋 （1967 年入学）

山口先生が亡くなられたとの報を聞き、思い出したのは東北地方に遠征に出た時のエピソードです。

それは昭和 43 年頃の夏のことです。 当時は東北自動車道も完全にはつながっておらず、国道 4 号線をずーっと走って行きました。現在では高速道で楽々と青森まで行けますが、4 号線で走って行くことは大変辛いものでした。但し対向車はほとんどなく、1 時間に数台という状況

でしたので、まだまだ気を抜けたものでした。

山形に着いた時、夜の食料を買うためにデパートに行きました。若い女性（庄内おばこと言う）に売り場を聞くと「おめえたち何買いたいんだ？」と山形弁（ズーズー弁とも言う）丸出しに言われました。山口先生が「これとこれとこれ」と指示され、私が（山形市内生れなので）再度聞いてやっと通じ、一同ほっと胸をなでおろしました。

山口先生は本当にナンバー2 の仕事をよくやり通せた方なのだなと思い出しております。

「山口先生の思い出」

岡崎 （1968 年入学）

学生の時、先生方と深くおつきあいをする事は普通の学生の場合、4 年生になり研究室で卒業研究をする時にに教わる 1 年間になります。私など自動車部で熱機関研究室に入った学生は、前田先生、山口先生、志村先生に 4 年間もお世話になりました。私は勉強が出来なかった学生だったので、教える先生方も大変だったと思います。先生方との思い出としては、勉強よりやはり自動車部での出来事になります。

山口先生の思い出のなかでも印象に残っているのは、計画書やデータ整理が綺麗にまとめられていたことです。

メーカーより車を借りて、いろいろなデータを取りながらの遠征を行っていました。その中でも走っている自動車の実際の空気の流れを直接測った事がありました。多分東名高速で車から身を乗り出して、風速を測ったり、流れが可視出来るように紙テープを張って写真に撮ったりしました。80km/h、100km/h など条件を変えてデータを採り、帰ってからそのデータの整理をしました。表を作ったり、車の周りの空気の流れを描いて判りやすい図にしたりと結構手間がかかりました。この作業を山口先生の指導の下に同期の加藤君などと一緒にやりました。

山口先生は雲形定規を使ってうまく流れを描いたり、データを表にするのもきちんと綺麗な字で書かれていました。今は見やすい表を作るのはエクセルで簡単に出来ますが、その頃は表も数字もすべて手書きだったのを、それほど大変そうな感じではなく作業をされていました。まとまった報告書では、学生が書いた表などはほとんど書き換えていただいており、とても見栄えも良く、報告書とはこのように作成するのだと感心しました。

4 年生になると就職活動をするので、会社を選ぶとき、山口先生が以前に勤務されていた会社に興味があったので話をしたところすぐに大学の OB で勤務されている方に連絡をとっていただき訪問しましたところ、その方も喜んで話を聞いていいただいたのですが、残念なことにその年は新卒は採用しないとの事で、学校に帰ってそのことを先生に伝えましたところ非常に悲しそうな表情をされていたことを今でも覚えています。

あの世で、坪井先輩、五十嵐先輩、加藤君、波多野君、磨田君たちと何を話しているのでしょうか？

ご冥福をお祈りいたします。

「山口先生を偲んで」

田上 （1968 年入学）

我々の年代が自動車部の運営に携わったのは昭和 45 年度なので、約 50 年前のことになります。半世紀経ち、脳みそも随分老化が進んでしまっているので、申し訳ないのですが当時の活動に関する記憶にもモヤがかかってしまっています。

私たちは 3 年生の時、部の運営を 1 年間任されました。当時副将だった私は加藤キャプテンと一緒に合宿や遠征、主催ラリーなどいろいろな行事に関連して、山口先生や志村先生に相談したということを覚えています。

山口先生はまじめで優和な話しやすい人柄で、親身に相談にのってくれました。おしゃべりついでにエンジン機構などのことも軽い気持ちで質問すると、分り易く丁寧に教えてくれたことも記憶の片隅に残っています。

70 歳を超えた我々は後何年こちらに居るか判りませんが、そんなに遠くない未来にあちらで再び山口先生にお会いすることになるでしょう。その時はまた屈託のない茶飲み話ができるといいな、と思っています。

「亡き山口先生を偲ぶ」

中野 （1968 年入学）

山口先生のご逝去の報に接し思い出を振り返り追悼文にさせていただきます。

長い自動車部の歴史の中で山口先生はラリーの計算方法を確立され、都立大自動車部常勝の歴史の立役者と伺っております。そのおかげで坪井先輩の代から始まり、小佐野先輩の代、小河先輩の代、故加藤君の代、篠君・中野の代とラリー常勝時代を築くことが出来ました。

そして、1967 年の第 1 回都立大ラリーから、私が実行委員長をやった 1971 年の第 5 回都立大ラリーを含め、山口先生には都立大ラリーの運営全般にわたりご指導をいただきました。自動車部の写真集にも第 1 回都立大ラリーのスタート地点でフラッグを持たれた先生のお姿や大会運営委員長としてご挨拶するお姿が残っております。

また春・夏の合宿、遠征などすべての行事について、前田先生の意向のもとご指導をして頂きました。私は 1968 年入学し自動車部に入部、熱機関研究室入り、先生には計 5 年間にわたり親しくご指導していただきました。山口先生には叱られた記憶はなく、柔和なお顔が今も思いだされます。

自動車部創部以来長きにわたり、自動車部に多大なるご尽力をいただき本当に有難うございました。

合掌

「山口先生の思い出」

佐々木 （1968 年入学）

経済学部に在籍していました私は、山口先生とは春・夏の合宿、遠征の時以外はあまりお付き合いがありませんでした。とは言いましても、私にとって山口先生は、都立大自動車部が学生ラリーの頂点に立った時の原点を築かれた方だという強い思いがあります。

私は自動車部の現役時代、ラリーでは計算を担当していました。指示速度を速分で表示し、修正係数（η）ごとの膨大な換算表を携えて自動車に乗り込み、競技中はその場で計算しなくてもその日の修正係数用の換算表に書かれた数字を拾って、即計算機に入力しながら 100 メートルおきにその地点の通過時刻を計算していく「TMUAC 独自の計算方法」は、まさに私たちの誇りでした。本当にありがとうございました。

山口先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

「山口先生の思い出」

配野 （1970 年入学）

2020 年は、新年早々中国で発生した新型コロナウィルス感染症は世界的な流行となり、漸くワクチンが開発され今後の状況改善が期待されますが、年末になっても地球規模での収束は見えない状況が続いています。今後も新たな病原菌と人類の戦いが繰り返されていくのかもしれません。

さて、昨年 8 月に山口先生が亡くなられておられたことを受けて、先生への追悼文を依頼されました。しかし、先生とは部活の報告程度であまりお話したことがなかったように思います。エピソードも思い当たらず、同期の OB に助けを求めましたが、部員と懇談するような機会が少なかったようであまり思い出話が出てきませんでした。

その中で、平山君が四国ロードテストの思い出を写真付きで送ってくれました。写真を見ると、同期では、平山君のほかに波多野君（故人）、河本君、私が参加しています。私はどこをどう走ったかほとんど覚えていません(かずら橋に寄って写真撮影をしたことも忘れてました)が、何故か宿に泊まった翌朝のクマゼミの鳴き声がやたらうるさかったこと、何処かで讃岐うどん？をすすったことは覚えています。山口先生は前田先生をサポートして、行程管理・データ整理など忙しく活躍されていたように記憶してます。今になって思い返せば部員たちの気づかないところを補っていただいていたように思います。

そんな記憶をたどっているうちに、私が就職相談で前田先生の研究室に伺ったとき、たまたま山口先生がおられてにっこりしながら励ましの言葉をかけていただいたことがあり、それまでは結構怖い先生だと感じていたのですが、嬉しく思ったことを思い出しました。お心遣いありがとうございました。

以下に、70年入学同期から寄せられた思い出・弔辞を列記いたします。（以下敬称略）

《平山》

遠征で四国一周したことを思い出しました。最近、写真の整理をしている中、先生のお姿もありましたので、記憶をたどり記載しました。古いことなので記憶違いがあるかもしれませんがご容赦願います。

自動車雑誌モータービークルからの依頼のロードテストに同行させていただき、山陰・四国一周の遠征に行きました。

東名・名神、山陰から山口を通りフェリーで四国に渡り、四国を西回りで高知。ここで一泊。帰路の途中で立ち寄ったのが、写真のかずら橋です。

遠征中、バインダーを持ち忙しく動かれていた山口先生(写真左端)が思い出されます。

『自動車部のイベントなどで陰ながら活動を支えていただき、ありがとうございました。山口先生のご冥福をお祈りいたします。』

《中台》

数日、何か思い出さないかと概ね半世紀前を思い起こしていました。ほんのり思い出すこともあるのですが、どうも不確実な記憶で終わってしまいます。皆で話すといろんなことが思い出されるのでしょうが・・・

『山口先生、私達の気づかない部分を補って、多くのご指導をいただきありがとうございました。ご冥福をお祈りいたします。』

《羽入田》

『残念ながらあまりお話しする機会がありませんでした。山口先生のご冥福を心よりお祈り申し上げます。』

《赤染》

『お話しする機会はありませんでしたが、自動車部の活動を見守っていて下さったと思います。ご冥福をお祈り申し上げたいと思います。』

《西》

『訃報を聞いて驚いています。自動車部ではお世話になりました。ご逝去の報に接し心よりお悔やみ申し上げます。』

最後になりましたが、追悼の体を示さない文になってしまいました。でも、あらためて山口先生を思い出し、各人の記憶に留めておくことが追悼になるのではと思います。また、協力いただいた70年入学同期に感謝いたします。

山口先生、ご迷惑をおかけしたことも多々あったかと思います。大変お世話になりました、あらためてご冥福をお祈り申し上げます。

「山口先生の思い出」

濱田 （1972年入学）

都立大（理学部物理学科）、というより自動車部に在籍していた1972年～1976年。

部活のメインであるラリーは、出れば入賞が当たり前、優勝を逃すと反省会というほどであり、学生ラリー界の雄と言っても過言ではなかったように思う。

当然、それを創り上げていた先輩方は強者揃いであり、個性豊かな方々が揃っていたように思う。ラリー常勝を支える運転練習も運転技能のランク試験も、先輩方の腕前に目をみはり目標としたものである。岳麓山荘での合宿最終日の芸の豊富さ、酒の強さも半端なく、まさに多士済々であった。

そんな当時の TMUAC を率いておられたのが部長の前田先生を筆頭に、監督の志村先生・山口先生・戸部先生、やはりまた、だからこそ個性豊かな先生方であった。合宿や遠征でまれに拝見した運転の凄さに驚かされた記憶も甦る。ラリーデビューから暫くはタイガー計算機と格闘していたが、この時お世話になった換算表は山口先生発案のものと伺っている。改めて常勝の根底にあったものだったと思う。

小生は理学部だったこともあり、先生方との普段の接点は少なく、特に山口先生との思い出は残念ながら希薄ではある。直接お話しをしたことも少なかったように思う。その中で思いだすのは、ランク試験でお会いする山口先生の佇まいにひたすら緊張したこと、口数の少ない方だったような気がする。主将をつとめた頃、出場ラリーの結果報告に先生の部屋を訪れる際の緊張、そして都立大ラリー主催でのあの緊張は今だに忘れられない。その中で、厳しくも優しくフォローしていただいた当時の山口先生の面立ちは今もはっきりと覚えている。

眼鏡をかけ、凛とした、まさに凛とした立ち姿でおられた。

昨年8月に永眠されたとのこと、時の過ぎ去る早さと寂寥に戸惑いを禁じ得ません。

ただただ、学生時代のご指導に深く感謝し、ご冥福をお祈り申し上げます。